



## コロナ禍における本年度の「教育実習」の様子

### 幼稚園 楽しい経験をありがとう♪

今年度は、実習期間が短くなったため、実習前にオンラインで実習生と出会う機会をもちました。オンライン上で実習生の笑顔を見たり話したりする中で、「早く一緒に遊びたいな」「一緒にお弁当食べたいな」と楽しみな気持ちを膨らませた子供たち。実習生もまた、机上の学びとは違う実践での学びに、期待を膨らませているようでした。

実習生がしてくれた手遊びは、指に人形が付いていて、子供たちの目は釘付け。また、シェービングクリームに色を付けたもので絵を描くなど、初めての経験もたくさんさせてくれました。あっという間の2週間でしたが、充実した日々でした。



手遊びに引き込まれて



クリームでお絵描き

### 小学校 できる限りの経験を

小学校では、まん延防止等重点措置期間が明けた10月4日から3週間の教育実習を行いました。例年よりも短い期間でしたが、感染対策をしっかりと行い、対面で実施することができました。対面実習開始前に、オンラインによる教材研究の時間を設けることで、授業の準備期間を確保することができました。昼休みに行われた児童会企画の「逃走中」では、実習生と子供たちが笑顔いっぱいに触れ合う様子を見ることができました。実習生の実習録には、授業づくりの難しさや楽しさ、子供たちと関わりの中で得た学びや喜びなどがたくさんつづられており、大変うれしく思いました。



大学での学びを生かして



つかまえてごらんよ

### 中学校 オンラインによる教育実習

本年度はコロナウイルス感染拡大の状況を踏まえて、主免学生の実習はオンラインによる授業参観、養護実習は保健室指導中心の実習に切りかえました。例年とは異なる形態での実施となりましたが、1週間本校教員が常時複数の授業をオンラインで公開し、学生が専攻する教科だけでなくさまざまな教科の授業を参観できる環境を整えました。また、国語科の授業は生徒の発表に対して学生が助言をしたり、英語科の授業では学生が英語で自己紹介を行ったりするなど、生徒と実習生が関わる機会を設定しました。生き生きとした表情で学生と交流をする生徒の姿が見られました。



理科の実験



養護実習

### 特別支援学校

#### 距離を取りながらの教育実習

本年度は主免3年と副免4年の教育実習を行いました。本校では、児童生徒にとっても、実習生にとっても安全で実りある実習となるために、コロナ禍における対策マニュアルを作成し、それに沿って実施しました。実習生はマニュアルを守った上で児童生徒と関わり、特別支援教育の在り方についての理解を深めることができました。

授業づくりでは、児童生徒の実態をよく観察し、個に応じた教材づくりや授業展開をしている実習生の姿が見られました。距離を取りながらの実習で、もどかしいこともあったかと思いますが、工夫して取り組むことができました。



ディスタンスを意識した授業



## <めざす子供の姿を大切に>

### じっくりと、こだわって

#### 【年少児】

新聞紙や広告紙を丸め、剣やステッキを作って遊ぶことを楽しむ子供たち。最初は年中児や年長児に作ってもらうことに喜びを感じていましたが、次第に自分で作りたいという思いが強くなってきました。「長くしたい」「もっと細くしよう」と、それぞれが思いやイメージを膨らませて作る子供たちの表情は、真剣そのもの。教えてもらった通りに、まずは角を小さく折り、両手で転がすようにしながら丸めようとはしますが、そう簡単にはうまくいきません。「難しいなあ」「なんでできないの!」と、もどかしさや悔しさを感じながらも何度も挑戦していました。「ここ持っておこうか」「手伝ってくれてありがとう」「上手だね」と、保育者や友達とやりとりをしながら作る雰囲気はとても温かくて和やかでした。

こうしてやっとの思いでできたものは、どこへ行くにも持ち歩き、使い終えた後は収納箱にしまって翌日も大事に使用しようとする姿が見られました。作って遊ぶことを通して、身近な人との関わりを深めたり、物を大切にしようとしたりし、少しずつ内面の育ちが感じられるようになってきています。



長く、細くに挑戦!

### 楽しさの先にあるルール

#### 【年中児】

春から始まったサッカー遊び。始めはボールを蹴ることがうれしくて、ボールを追いかけては蹴ることを繰り返し楽しんでいました。しばらくすると、そこに年長児が入って一緒にサッカーを楽しむようになり、だんだんとサッカーのルールを意識するようになってきました。ただ、ルールを知らない子が多い年中児にとっては、年長児の「ボールを触ったらだめだよ」や「自分のゴールには入れないよ」という言葉の意味が分かりませんでした。自分たちが言われたことに対して納得がいかず、泣いたり怒ったりする子もたくさんいました。ここで、教師が入ってルールの説明をすることはできるのですが、まずは自分たちなりに工夫したり、イメージを広げて遊んだりする楽しさを味わってほしいという思いから、あえてルールを教えることはしませんでした。

そんな日々を積み重ねてきた2学期末には、ルールを意識し始めた年中児の姿がありました。年長児の力強いキックで跳んできたボールに向かっていくたくましい年中児。そして、思わずボールが手に当たると「あ、手はいかんや」と自ら気付く姿。自分のゴールにボールを入れてしまったときには「向こうのチームに1点やなあ」と納得した表情で言う姿。年長児との関わりの中で、遊びの面白さや友達関係の深まりを感じています。



年長さんに負けないぞ!

### 自主・自律

### 共生・協働

### 探究・創造

#### 難しさを楽しむ

#### 【年長児】

年長児は、クリスマスにサンタさんから鉄芯ごまをプレゼントしてもらいました。そのこまを使って楽しんでいるうちに『こま道場』なるものが出てきました。

『こま道場』の内容は、「レベル1 ひもを巻ける」「レベル2 ひもを巻いたこまを持てる」「レベル3 こまを投げられる」といった感じで、少しずつレベルが上がっていきます。こまを楽しみ始めると、回すことばかりに目が向きがちになりますが、こまを回せるようになるまでには「ひもを巻くこと」や「こまの持ち方が分かること」など、クリアしなければいけない段階がいくつもあるのです。そうしたことが、経験を通して分かっているからこそ、こまを回すまでの過程にも価値を見出すことができるのだと感心させられます。

そこに集まっている子供たちの楽しそうな雰囲気に誘われてか、いつの間にか『こま道場』には、たくさんの友達が集まって来ました。そして、一人一人が自分のレベルに合わせて挑戦していました。ひもの巻き方がまだ分からない人は「どうやって巻くん?」と友達に尋ねています。尋ねられた人は、頼られていることがうれしくて「最初、芯の所は、きつく2回巻いて、後は優しく巻いていったらいいよ」などと伝えています。そうして、やっとひもを巻けるようになった人が、教えてもらった友達に「巻けたよ!」と伝えに行くと、自分のことのように「よかったなあ」と言って互いに喜び合う姿は、実にほほえましいものです。

子供たちは、こま遊びを心から楽しむ中で、少し難しいことに向き合いながら粘り強く自分に挑戦したり、自分なりに追求したり、さらには、友達の良さに気付いたり認めたりしながら友達関係を深めています。クラスの中で、一人一人が自分の存在感をうれしく感じ、互いの良さに気づき、違いも温かく受け入れ、共に生活する喜びが十分に感じられるよう、卒園までの一日一日を大切に過ごしたいです。



『こま道場』で考え中



自分の記録に挑戦!

#### 青組さんと エンジョイSDGs

2年西組は、附属幼稚園の青組の子供たちを招待して、「SDGsリサイクル祭り」を行いました。生活科の学習で、身の回りの不要品を使って、動くおもちゃを作って遊ぶ活動を行ってきた子供たちは、「自分たちの作ったもので遊んでほしい」「2学期にしたようなお祭りをしてほしい」と誰かを招待して、自分たちの作ったおもちゃを使った楽しいイベントを行いたいという思いを高めていました。そこで、これまでの2年生が青組の子供たちと交流してきたことを伝えると、附属幼稚園出身の子供たちを中心に、自分たちが青組のときに、2年生に招待してもらったことを思い出しながら、青組の子供たちとの交流の計画を立てていきました。国語の時間の学びを生かして、招待状を作ったり、遊び方の説明の仕方を考え、練習したりと準備を進めていきました。

幼稚園に招待状を持って行った際には、コロナ禍の影響で今回が初めての青組の子供たちとの出会いだったので、緊張気味の様子でしたが、触れ合いの機会をとても喜ぶ姿がありました。また、幼稚園に行くことで、幼稚園の懐かしい遊具が昔より小さく思えたことに自分の成長を感じたり、幼稚園の子供たちが大きなダイコンを育てている姿や、一輪車に上手に乗っている姿などを見て、予想以上にできることが多いなど驚いたりしていました。

「SDGsリサイクル祭り」当日は、年下の子に優しく声をかけたり、楽しんでもらえるように場を工夫したりしている姿に年上としての責任感の高まりを感じました。青組の子供たちにとっても、小学校には優しい先輩がいて、楽しい活動が待っていることを実感することができ、入学へのわくわくした思いを高めることができました。

2年東組も3学期に青組の子供たちとの交流活動を計画しています。対面での交流が再び難しくなっていますが、異学年交流は双方の子供たちにとって、とても意義深いものです。このような時期だからこそできる工夫を行い、交流活動を続けていきたいものです。



招待状を持って挨拶



おもちゃ作りを教える

### 大好き 坂出 探検隊

3年生は、坂出市について調べ、レポートにまとめてきました。

1学期には、坂出市の基本情報について調べました。坂出市の位置や大きさ、人口など分担しながら調べ、みんなで共有し、坂出市の大きな様子を捉えました。その過程で、坂出市には様々なイベントがあることを知った子供たちは、「さかいで大橋まつり」について調べを深めていきました。

2学期からは、イベントに限らず自分が知りたい、みんなに伝えたい坂出市の情報を調べていきました。今年度から導入された一人一台端末を活用しながら、インターネットを使う際の注意点や、効率的な検索の仕方なども学び、情報の取捨選択の難しさを感じていました。



坂出市の様子を調べよう

調べる内容は多岐にわたり、坂出市のイベントについて引き続き詳しく調べる子供や、名物などのグルメについて調べる子供、古い建物について調べる子供など、それぞれが興味を感じるものを調べていきました。

調べて分かったことは、一人一台端末を使って、プレゼン形式でまとめました。音声も録音することで、みんなに興味をもってもらえるものに仕上げることができました。

### 1 Love うどん 1 Love 香川

5年団は、さぬきうどんについて調べる中で、郷土愛を育み、香川に貢献しようとする姿をめざしました。

まずは、一人一台端末を活用し、うどんの材料・作り方の手順などについて調べ学習を行いました。その際、社会科で学習した「情報の集め方」を生かし、時間・空間を広げて情報を収集することができるようになりました。秋の校外学習でうどん学校の専門家の方から聞いた情報や体験したことを記録していききました。また、国語科で身に付けたプレゼンテーションの力を生かし、学習支援アプリで、体験や本・インターネットからの情報収集で分かったことを、地図・年表などにまとめながら、主張したいことを整理していきました。収集した情報をより分かりやすく伝えるために、再度調べ直したり、裏付ける情報を収集したりして複数の情報を関係付ける姿も見られました。友達がまとめた資料から得た情報を追加し、自分の表現物を再構成する姿も見られました。

これらの活動を行う中で、今まで当たり前食べていた、さぬきうどんの魅力を再発見し、「外国の人にもさぬきうどんのおいしさを伝えたい」「これからも香川の伝統を守っていきたい」という思いを高めていきました。



うどん学校での体験



## <めざす子供の姿を大切に>

自主・自律

共生・協働

探究・創造

日常生活での自立

集団生活での自立

社会生活での自立

### 共創型探究学習CAN

#### CAN2021最優秀研究「青雲賞」 「どうしたら(コロナ禍の)食品ロスを救えるか?」が受賞!

今年度で、12年目を迎えるCAN。11月27日に行われたCAN賞発表会では、今年度の優秀研究『CAN賞』に選ばれた4つのクラスターが、TV放送によるプレゼン発表を行い、投票によって最優秀研究『青雲賞』が選ばれました。ニュースなどでよく耳にする「食品ロス」。そんな「食品ロス」を削減する方法を考える中で「規格外野菜」に着目し、それらを使った新しいパン注文のメニューを生み出すべく、地元の農家さんと附坂中生の笑顔のために奮闘してきた「どうしたら(コロナ禍の)食品ロスを救えるか?」のクラスターが、見事に『青雲賞』の栄冠に輝きました。

<クラスターリーダーの3年生の受賞後コメントより>

Q1: 受賞の要因は何だと思いますか?

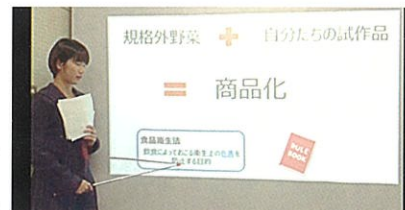
「クラスターの団結によって、食品ロスの削減のためにできることを真剣に話し、意見を出し合いました。その上で、生産者(農家の規格外野菜)と、製造業者(パンの創作)と、消費者(学校でのパン注文)とを繋ぐ活動ができたことが一番の要因だと思います。」

Q2: 探究で最も苦労したことは何ですか?

「農家さんでの規格外野菜集めに予算や手間をかけないための工夫や、学校アンケートの結果を反映させるためにパン屋さんと何度も“規格外野菜パン”を試作しました。交渉と設定に苦労しました。」

Q3: 3年間のCANの探究は自分にとってどのようなものだったのですか?

「私にとってCANの探究は自分と向き合いながら成長できるものでした。授業の中で、先生から問いかけられたり教えられたりすることは多々ありますが、自分でテーマを考えて結果を導き出す経験はそうありません。CANは、自分でテーマを決め、その物事について深く考える力と研究する探究心をもつことができました。今後の私の人生においても、興味をもち、そこから学びとり、さらなる経験として積み重ねることが大切だと思います。」



自分たちの探究の成果を  
プレゼン発表する様子



CAN2021『青雲賞』に  
輝いたクラスター

#### 【その他の主な表彰/「探究テーマ」】

- ◆ 優秀研究『CAN賞』  
「どうしたら(コロナ禍の)食品ロスを救えるか?」  
「Salt water power generation ~なぜ塩水を使った発電は身近でないのか?~」  
「女性用制服ズボン制作所」  
「どうすれば火力発電を身近なものにできるのだろうか?」
- ◆ 優秀研究『イグ青雲賞』  
「どうして、割り箸はきれいに割れないのか?~ちゃんと真っ直ぐ割れるようになろう!~」
- ◆ 『課題設定賞』  
「なぜチョークの汚れが黒板に残るのか?」
- ◆ 『課題追究力賞』  
「どうして食品系のもの中でもこげやすさが異なるのか?」
- ◆ 『課題表現力賞』  
「ペットボトルロケット研究所2~なぜ、ペットボトルロケットは安定しないのか?~」
- ◆ 『チームマネジメント賞』  
「なぜ部屋に折り紙を飾る人が少ないのか?」



### 体力づくり(走る)

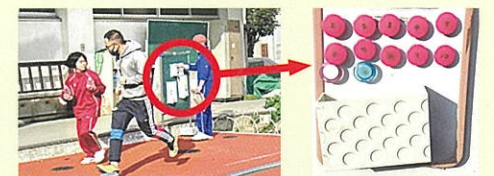
本校の児童生徒の中には、体の動きがぎこちなかったり、体力がなかったりする子供たちがたくさんいます。日々の生活の中や、卒業後の仕事・余暇・生活でよりよく体を動かすことができるようになるために、どの学部もしっかり体を動かし、体力づくりをめざす時間を設定しています。  
各部での取組を紹介します。

#### 小学部

毎日1時間目にプレイヤードを走っています。朝一番にしっかり体を動かすことで、しっかり目覚めて

その後の学習に向かいやすくしています。自分たちで準備・片付け・進行など担って自立的に活動できることもねらってい

ます。何周走るか周回数を磁石などで示し、1周するごとに一つずつ外していくなど、見通しをもって走ることができるようにしています。毎日継続することで、体を動かすことが習慣化できていく子や、自分なりの目標をもって取り組めるようになる子などがいました。将来の生活を支えるための体力づくりをめざしています。



走る周回数を磁石で示す

#### 中学部

中学部では、水曜日以外の1時間目後半の時間にジョギングと筋力トレーニングをそれぞれ週2回ずつ設定し、継続して運動に取り組むようにして体力づくりに励んでいます。ジョギングでは1周約300mのコースを7分間で走れる距離を目安にして生徒それぞれの走る周数を決めています。走るときには1周ごとのタイムを記録し、毎回全員のタイムを一覧表にして貼り出すことで、それぞれがベストタイムの更新をめざして取り組んでいます。また、ジョギングの前には準備運動を兼ねているいろいろな動きに取り組むことで、体の使い方の向上も図っています。



校内を走る様子



準備運動の様子

#### 高等部

高等部では、金曜日の1時間目が「保体全」の授業となっており、後期は主に持久走に取り組んでいます。今年度の持久走は、学校のすぐ横を流れる綾川の河川敷500mコースを20分間周回しており、一番速い生徒で11周を走行している状況です。秋に実施した現場実習では、実習先によっては「午前中の休憩は1回」「作業が遅れているので休憩なし」という事業所がありました。実習終了後「働くためには体力が必要」であると感じた生徒が何人もいました。

卒業後健康で働き続けることができる体力の備えと、運動の習慣化を目標に今後も継続していきたいと考えています。



河川敷を走る様子



心の支援部の取組

学校保健安全委員会  
～縦と横のつながりを通して～

附属坂出学園（幼稚園、小学校、中学校）合同の取組

附属坂出学園では、年2回の学校保健安全委員会を実施しています。

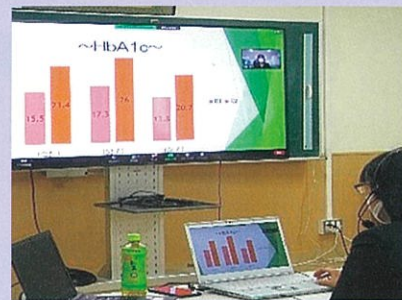
令和3年度の1回目は、「子供の健やかな育ちのために～心理テストで私を知ろう、子供を知ろう～」というテーマで、エゴグラム、発達性トラウマ、自宅で子供とできる遊びについて、スクールカウンセラーの田中先生、入江先生、スクールソーシャルワーカーの藤澤先生より講話をしていただきました。

2回目は、栄養教諭の大西卓子先生に講師として来ていただき、「コロナ禍における肥満予防の食生活」という演題で話をさせていただきました。肥満予防の話題のみならず、中学生のお弁当の作り方のコツについても分かりやすく伝えていただきました。学校医の佐藤融司先生からは、「新型コロナウイルス感染症の現状」という演題で、感染のメカニズム、症状、ワクチンの仕組みや種類、更にワクチンの効果や副反応について、詳しく話をさせていただきました。

普段聞くことができない話題をお二方から具体的に聞くことができ、有意義な時間となりました。

＜保護者の方の感想＞

- ・今回学んだ栄養バランスの大切さと同時に、添加物にも着目していきたい。
- ・「肥満傾向ではないから大丈夫」ではなく、食べたもので体は作られていることを忘れず、食事づくりを行ってきたい。
- ・家族で楽しく食事をすることも肥満予防につながると知ったので、家族での食事を大切にしたい。
- ・コロナワクチンの成り立ちや仕組みが、とても興味深かった。また、ワクチンの有効性についても勉強になった。
- ・コロナへの対応として、ワクチン接種等、自分でできることから実践することの大切さを実感した。



オンラインによる講話



佐藤 融司先生



大西 卓子先生

小学校

ライフスキル学習の実施

小学校では、学級担任、スクールカウンセラー、養護教諭が協働し、前思春期に当たる4年生以上を対象に、ライフスキル学習に取り組んでいます。

ライフスキルとは、「自分らしく、よりよく生きていくための力」のことを指します。学級の実態に合わせて学習内容を選び、本年度は、「意志決定」「上手に断る」「広告やチラシとの上手な関わり方」「エゴグラムで自分を知る」という内容で実践しました。

授業では、各学級で抱える困り感を例に出し、自分だったらどう対応するかということを個々に考えていきました。

中学校

ソーシャルスキルトレーニング

スクールソーシャルワーカー藤澤先生の協力を得て、中学2年生を対象にソーシャルスキルトレーニングの授業を年5回行いました。11月は「マイトリセツ」を、12月は「グループのトリセツ」を作成しました。

作成する中で、どのようにお互いの関係性を築いていったらいいのか、自己理解だけでなく、他者理解にも繋がりました。

来年度も同様に実施したいと考えています。



グループでトリセツを作成

～様々な人が集まり関わり合う学園に～

幼稚園

保護者による手作りおやつ

新型コロナウイルス感染症の流行により見合わせていた、保護者による手作りおやつを12月から再開しました。

12月のおやつは「マシュマロポップ クリスマス風」でした。保護者の方が作っている部屋から、甘い匂いが幼稚園中に広がります。その甘い匂いに、かわいい子供たちが代わる代わるおやつの部屋の様子を覗きに行き、楽しみに待っていました。保護者の方も次々に来る子供たちに「見られると緊張する～」と言いつつも「待っていてね」と声をかけてくれました。

待ちに待ったおやつが出来上がり、保護者の方が、各クラスに届けてくれました。受け取った子供たちは「かわいい～」「早く食べたい！」とワクワクが止まらない様子です。そして、おやつを食べ始めると「おいしい～」「こんなの初めて食べた！」「もっと食べたい」など次々と子供たちから言葉が飛び出してきました。

やはり手作りおやつは保護者の方の愛情いっぱい、買ってきたおやつとはひと味もふた味も違うのでしょう。コロナ対策をしっかりとしつつ、この伝統を守り続けていきたいものです。



おいそうだね～

中学校

特別授業（財政教育・浴衣着方教室）

3年生社会科の授業で四国財務局の方を講師に招き、「財政教育プログラム」を行いました。

国全体で1年間にどれだけのお金を使っているのかを知り、それをどう使うのかをグループで考えました。発表の際は鋭い質問が飛び交い、議論が白熱する場がたくさんありました。



未来の国の財政を考え中



もういつでも着れるよ

1年生家庭科では、「NPO法人楽しく着物を着る推進会議」から講師を招いて浴衣着方教室を行いました。授業では、何度も着方を練習し、自分で帯を結べるようになった生徒もたくさんいました。また、講師の先生から着物について様々な話を聞き、着物についての関心をさらに深めました。体験を通して、着物を着る喜びや日本の伝統文化のよさを感じることができました。

小学校

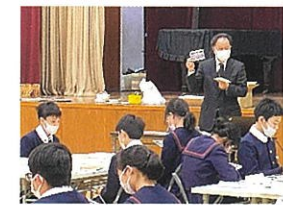
子供 夢・アート・アカデミー

小学校では、福王寺一彦先生を招き、「子供 夢・アート・アカデミー」を開催しました。

福王寺先生は、樫石島に制作拠点を置いて創作活動に取り組みされており、自然から教わる気持ちを大切に、一瞬一瞬の自然の姿を通して得られるイメージを、日本画の岩絵の具を用いて描いていらっしゃいます。

この日は、子供たちのために作品のポストカードを用意していただき、それぞれの作品に込めた思いを伝えていただきました。また、全校生に、福王寺先生の作品を実際に触れて鑑賞する機会をいただき、岩絵の具を用いた日本画の魅力を感じることができました。

水墨画体験では、点や線の太さや墨の濃淡を工夫することで、一本の筆でも多様な表現ができることを学びました。描くことで次々と生まれるイメージを広げる体験を通して、水墨画の世界を楽しむことができました。



自作のはがきに込めた思い



濃淡に気を付けよう

特別支援学校

地域の方と

小学部では、毎年クリスマス集会をしています。地域の読み聞かせの団体「おはなしほけっと」の方を招いて、読み聞かせや手遊び、リトミックなどしてもらっています。コロナ禍ではありますが、今年度も12月21日に来ていただきました。

大型絵本の読み聞かせはクリスマスのお話やみんなが興味をもちそうな動物のお話、ブラックライトシアター、手遊びは「トントンひげじいさん」の替え歌、音楽に合わせてパペット遊びなど、密を避けて楽しめる内容を考えていただきました。子供たちは毎年とても楽しみにしているのももちろんですが、「おはなしほけっと」の方からも、「子供たちの笑顔に元気をもらっています」「毎年子供たちの成長を楽しみにしています」と、ありがたいお言葉をいただいています。



「また来てね」



手作りの大型絵本で読み聞かせ



幼稚園

附属中学校3年生との交流

12月13, 17, 20日の3日間、附属中学校の3年生が、家庭科ふれ合い体験学習として遊びに来てくれました。事前に中学生と一緒に遊んでくれると聞いていた子供たちは、リズム室でオリエンテーションをしている間も、まだかまだかと入り口で待っています。そして、終わるやいなや「一緒に遊ぼう!」と声をかけにいく積極的な姿に、中学生も安心した表情を見せていました。

一緒にホッケーやサッカー、一輪車に挑戦したり、剣を作って戦いごっこをしたり、年賀状を作ったりする中で、子供たちは、幼稚園のことは自分たちの方がよく知っているとかばかりに、「教えてあげようか」と優しく関わる姿も見られました。また、中学生が本気になって遊んでくれることや、「いいね」「すごいね」と全てを認めてくれることがうれしくて、そのことに満足すると、さらに面白くしようと工夫する姿も見られ、とても充実した3日間となりました。

他にも附属小学校や坂出高校など、異校種間交流をしていますが、自分より大きな人からしてもらった温かな関わりを、いつか自分たちも大きくなった時にしようとするのでしょうか。



こうやって作るんだよ

小学校

附属の伝統「附ッザニア」

6年生の未来学習で、11月に「附ッザニア」を開きました。

「附ッザニア」では、医者やプログラマー、保育士、デザイナーなど21のグループに分かれて、学校内の様々な場所で、調べた仕事について1～5年生に紹介しました。仕事内容や必要な資格、やりがいや大変さなどをまとめ、聞く人に分かりやすいように工夫して話しました。そして、仕事内容について、もっと知ってもらうために、仕事体験してもらいました。楽しい体験活動を6年生が用意し、1～5年生は自分が興味のある職業について、楽しく学ぶことができました。この経験は自分たちが6年生になったとき、下学年の友達と関わる際に役立ちそうです。「附ッザニア」は附属坂出小学校の伝統の活動になっています。



この仕事のやりがいは…



化石を発掘する楽しさを体験

中学校

なかまとともに思い出を

〈3年生〉

10月18, 19日に小豆島と徳島県祖谷へ日帰り修学旅行に行ってきました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で従来の屋久島へは行けませんが、身近な所なのに今まで知らなかった歴史や環境などを知り、新たな気付きや学びが多くありました。どこに行くかではなくて誰と行くかというなかまの価値を再確認する旅でもありました。



アスレチックを満喫

〈2年生〉

12月6日に五色台集団学習を行いました。うどんづくりやウォークラリーなど、クラスや班で協力しながら活動できました。翌日には、修学旅行の練習として丸亀城まで歩いて往復する「Walking Day」を行いました。普段歩かない距離を、なかまとともに励まし合いながら歩く姿がとてもよかったです。



ウォークラリーでハイ、チーズ

特別支援学校

全学部で修学旅行

新型コロナウイルス感染症の影響で、日程や行き先を変更して実施しました。(高等部3年生においては、昨年度から延期となっていました)

- 内容は次のとおりです。
- 小学部5・6年生は県内で一泊二日  
四国水族館を見学したり、ゴールドタワーで遊んだりしました。丸亀のホテルに泊まり、夜はディナーを楽しみました。県内でしたが、楽しい旅行になりました。
  - 中学部3年生は山陰へ二泊三日  
出雲大社をお参りしたり、鳥取砂丘や水族館などを観光したりしました。二泊目の夜は皆生温泉に泊まり、ゆっくり温泉につかりました。思い出に残る3日間となりました。
  - 高等部3年生は県内で一泊二日  
貸し切りバスで県内を回りました。浴衣を着て栗林公園を散策したり、水着を着てイルカと戯れたりしました。さぬき市津田で宿泊し、翌朝はシーカヤックで島まで行きました。豪華で楽しい県内旅行となりました。
  - 高等部2年生は北九州で二泊三日  
新幹線「さくら」に乗って行きました。ハウステンボスで遊んだり、長崎平和公園や軍艦島を観光して、歴史の勉強をしたりしました。大宰府天満宮をお参りして、3年生になって進路が決まるようお祈りしました。

全国国立大学附属学校PTA連合会「絵画コンクール2021」  
「未来への架け橋～明日に繋がる私たちの挑戦～」

この度は全附P連絵画コンクール2021の開催にあたり、香川大学教育学部附属坂出四校園の皆様には多大なるご協力をいただき、誠にありがとうございました。全国の子供たちへ今年も絵画コンクールへ参加する機会をいただき大変感謝しております。子供たちの絵画を前にした二次審査では、子供たちの作品に込めた思いや力強さを感じることができました。主管校の皆様には誠にありがとうございます。コロナ禍の中で大変なご苦労があったと思いますが、子供たちの作品から未来への希望や挑戦する勇気を感じていただけたのであれば幸いです。これからも全附P連では様々な事業を通して子供たちの未来へ繋がる活動を続けて参ります。今後とも皆様のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



全附P連会長  
大竹 昌士

附属坂出学園が主管校となって実施しました。

今年度、全附P連主催の「絵画コンクール2021」を附属坂出四校園で主管いたしました。この主管について話が持ち上がったのは2019年のことでした。全国9地区を持ち回りになっている絵画コンクールの主管地区として2021年度に四国地区が受けることが決まっていたので、役員会や先生方と協議した結果主管校として名乗りを上げることになりました。しかしその後の新型コロナウイルスの影響で状況は二転三転大きく変わりました。オンラインでの引継ぎを終えた後、開催方法に関して今までとは違った方法で行う必要がありました。



受賞作品と審査員

小学校役員中心にテーマを「未来への架け橋～明日に繋がる私たちの挑戦～」とし、またコロナ禍でも継続して開催できる方法を検討した結果、ここ数年全国から2,500点を超える応募作品が主管校に集まってきて一度に審査していたものを、WEB上での一次審査を行い、作品を絞って二次審査を行うことで当日の労力削減と密にならない設営で行うことができました。

一次審査では全国から総数1,414点エントリーされ、教師をめざす香川大学教育学部の学生70名と香川大学教授の古草敦史様、香川県教育委員会の宮脇美津子様にもご協力をいただき、WEB上での投票結果6部門で計504点を選びました。

一次審査を通過した作品が集まると常任委員さんにお手伝いをしてもらって確認・仕分け作業を行い、同時に返信用の一覧を作って準備をしました(写真1)。二次審査も多く常任委員さんや親和会役員さん、そして先生方のご協力のもと小学校の体育館でスムーズに審査ができました(写真2)。

審査員には前出の古草先生、宮脇先生に加えて櫃石島にアトリエを構える日本画家の福王寺一彦先生と全附P連の大竹昌士会長の4名をお願いをし、作品の一点一点を丁寧に審査していきました(写真3, 4)。どの作品にも子供たちの思いが込められていて、審査員の皆様も甲乙つけがたいと感じており、「エネルギーがあふれている」「筆遣いがすばらしい」「子供の気持ちが伝わってくる」などと感想を口々に語り、それぞれ全員の意見を出し合いながら各賞を決めていくことができました。

今回全国規模のコンクールを主管させていただいたことで、役員はもとより常任委員さんにとっても良い経験になり、また全国の子供たちの作品を間近にふれて得難い感動がありました。さらに一次審査にご協力いただいた大学生は、コロナ禍のため教育実習が十分にできない状況でしたが、子供たちの作品や想いに触れることで教員を志す気持ちをより一層高めることができました。

最後になりましたが今回の「絵画コンクール2021」にご協力いただいた審査員の皆様と保護者の皆様、先生方、大学生、そして全附P連の広報委員会をはじめ理事の皆様には御礼を申し上げます。ありがとうございました。



写真1



写真2



写真3



写真4



## 松 韻 会

12月18日（土）に幼稚園にて、土曜メンテナンスが開催されました。しかしながら、今年度もコロナウイルス感染症拡大防止の為、学園の皆様にお声がけができず、幼稚園の保護者の方（園児・児童）で行いましたが、50名以上の方々が参加してくれました。



今回は、先生方にご指示いただきながら園庭、リズム室、各クラス、保健室、廊下や玄関、また子供たちがよく使っている積み木のメンテナンスを行いました。

リズム室では、積み木や長椅子等を運び出すときに、子供たちも一緒になって運び出したり、窓も一緒になって磨いたり、さらに大人にはないスピードで雑巾がけをして、そのあとにワックスがけを行うなど、親子の連携プレーで床がとてもピカピカになりました。

クラスのお掃除では、先生と日頃の子供たちの様子を話しながら、子供たちがまた楽しくクラスで過ごせるように、掃き掃除やワックス、細かなところの雑巾がけ、小窓や窓、アクリル板等の拭き掃除を行いました。

お父さんも寒い中、高圧洗浄機を使って玄関を見違えるほどきれいにしたり、木くずだらけになりながら、ヤスリで積み木の汚れを落としたりしました。

一生懸命の中にも、子供たち同士で協力し合ったり、保護者間や先生方と交流し合ったりする姿が見られました。

今後も、子供たちが安心・安全に園生活を送れるよう活動し、来年度は、学園の皆様と共に土曜メンテナンスを行うことができればと思います。

## 親 和 会

### コロナ禍2年目における親和会活動

親和会では、コロナ禍における取組の一つとして、昨年度より代表者会（役員会）をリモートで行ってきました。昨年度第1回目の代表者会において、メディア教育担当の先生より「Zoom」の説明があり、グループに分かれて学校のタブレットを使って体験しました。今年度は、年度初めの総会もリモートで行いました。役員が変わり、新入生が入ってきてメンバーの顔が分からない、通信環境が安定しないなど、これまでの集会方式では感じなかったもどかしさや不安がありました。一方では、代表者会時の学校までの往復が不要になったり、総会の時間が大幅に短縮されたりするなど、時間短縮のメリットの大きさを感じました。感染状況が少し落ち着いた状況での第5回目の代表者会は、久しぶりに集会形式で行い「ふれあい祭り」の親和会の参加協力について話し合うことができました。「ふれあい祭り」での親和会の取組としては、駐車場と受付・検温の当番、親和会バザー「お宝市」のみとなりましたが、本部役員と行事部が協力して行いました。「まん延防止等重点措置」が適用される直前の第6回目の代表者会は、対面とリモートの選択制で実施しました。ほとんどの役員がリモートでの参加を選択されましたが、回数を重ねるごとにリモートでも話し合いがスムーズになるなど、昨年度から取り組んできたことが間違っていないと確信できました。

次年度は新型コロナウイルス感染症の感染状況を見ながら、活動の場をできる限り増やせるようにしたいと考えています。



オンライン代表者会の様子

### 編集後記

本年度も新型コロナウイルス感染症の影響を受け、合同運動会や土曜メンテナンスの開催などが、附属坂出学園として十分に行えない場面が多く見られました。

そのような中、全附P連主催の絵画コンクールの主管校としての活動は、附属坂出学園の結束力の強さを再認識できるすばらしいものであったと振り返ります。

これからも、さまざまな制限があるかもしれませんが、どんな状況になっても、附属坂出学園の子供たち、保護者のみなさん、教職員のすべての人たちが、「よりよい附属坂出学園」のために力を合わせて、充実した学校生活や松韻会・親和会の活動を創っていかれたらと思います。

発行年月日：2022年3月吉日

発行事務局：香川大学教育学部附属坂出学園